よのつねの光ならねばますかがみそこまですめるさとりをぞ去る

〔倭訓栞前編六加〕かゞみ　紅毛の硝子鏡（ビイドロカゞミ）はさびずとぞ

〔歴世女裝考一〕柄鏡

唐物硝子鏡（たて二寸七分よこ一寸七分）全質璃瑁細工、かゞみ硝子繪やう彫あげ、圖の如く略○圖轉柱をあぐれば、内にびいどろかゞみあり、按に、今市中にてひさぐびいどろかゞみは、かゝる唐物を摸し作りはじめたるならむ、是も五六十年以來の新製にて、今は下輩萬家の重寶たり、

〔集古十種銅器〕蜷川氏藏、山城國宇治郡堀地所得埴鏡圖略○圖

〔東大寺獻物帳〕御鏡貳拾面略○中

圓鏡一面、重大卅三斤八兩、徑一尺五寸八分、鳥花背緋絁帶八角榲匣盛、

〔多武峯略記〕奉送多武峯聖靈院御裝束幷靈物等事略○中

以形狀爲名

庇御鏡五面圓形

〔大安寺伽藍緣起幷流記資財帳〕合鏡壹阡貳百漆拾伍面、佛物一千二百七十面之中、花鏡二百五十九面、圓鏡二百八十四面、方鏡六面、鐵鏡七十一面、雜小鏡六百五十面、菩薩物二面、並圓鏡、通物三面、

〔延喜式十七内匠〕御鏡一面方七寸

〔西京雜記三〕高祖初入咸陽宮、周行庫府、金玉珍寶不可稱言、略○中有方鏡、廣四尺、高五尺九寸、表裏有明、人直來照之、影則倒見、以手捫心而來、則見腸胃五臟、歴然無碍、人有疾病在内、則掩心而照之、則知病之所在、又女子有邪心、則膽張心動、秦始皇常以照宮人、膽張心動者則殺之、高祖悉封閉以待頂羽、羽併將以東、後不知所在、

〔東大寺獻物帳〕御鏡貳拾面

八角鏡一面、重大卅八斤八兩、徑二尺一寸七分、鳥獸花背緋絁帶八角榲匣盛、